

第1回「町田市北部丘陵活性化計画アクションプラン」検討委員会 会議録要旨

【会議日時及び場所】

日時 2019年9月27日(金) 14:00~16:15

場所 町田市役所 10階10-4会議室

【出席者】(敬称略)

■委員

関司 直也(委員長)、柳沢 厚(副委員長)、老沼 敬助、大谷 賢二、熊谷 正廣、田中 英夫、大谷 直勝、中丸 康明、山崎 凱史、岸 由二、福原 斉、尾留川 朗、間仁田 修

■事務局

守田北部・農政担当部長、粕川農業振興課北部・里山担当課長、富高担当係長、皆木担当係長、井上主任、浅場主事、鈴木主事

■傍聴者

0人

【資料】

次第

(資料1) 町田市北部丘陵活性化計画アクションプラン検討委員会設置要綱

(資料2) 町田市北部丘陵活性化計画アクションプラン委員名簿

(資料3) 2018年度第2回検討委員会での主な意見及び対応について

(資料4) 町田市北部丘陵活性化計画アクションプラン進捗確認シート

【議事要旨】

- ・事務局より検討委員会の開催趣旨、北部丘陵地域での事業の進捗状況等を説明した。
- ・委員より質疑応答を受け、意見交換を行った。

【会議内容】

1 開会あいさつ

経済観光部北部・農政担当部長より挨拶

2 事務局及び委員の紹介

- ・事務局の紹介及び出席委員全員が自己紹介

3 議事

(説明)

- ・2018年度第2回検討委員会での主な意見及び対応について、資料3の主な事項を事務局から説明

(説明)

- ・「町田市北部丘陵活性化計画アクションプラン」の進捗状況について、資料4に基づいて事務局から説明

4 その他

(意見交換)

- ・「町田市北部丘陵活性化計画アクションプラン」の進捗について各委員から意見

5～意見交換～

1. 委員 アクションプラン設置要綱で、私たち検討委員のやるべきことについての確認をしたい。説明でアクションプランの策定、チェック・評価をすと言っていたが、今後の検討についての意見は言えないのか。
2. 事務局 意見はいただきたい。
3. 副委員長 町田市之宝である北部丘陵の活用方法を、具体化することが大事である。

～意見と対応について～

1. 委員 小山田と小野路でアクションプランを2つに分けて欲しいとは言っていない。新たな交流・回遊拠点に関して、小山田と小野路では状況が明らかに違うので分けたらどうかと言った。
2. 委員 2019年3月15日付けで、2018年度の第2回検討委員会の要旨の配布があった。この意見と対応について、なぜ2つしか項目が取り上げられていないのか。前回の検討委員会の意見を無かったことにしている。
3. 事務局 検討中の項目があるため、少なくなった。
4. 委員 アクションプランでは何が大切であるか。検討委員会では議論が脱線することが多いため、芯になる項目を吸い上げて実のある検討委員会にしていきたい。
5. 副委員長 これからの進め方については、項目を絞るやり方はよい。以前の検討委員会で出た意見の回答が無いのはどうしてかということについては、現段階では、ここまで答えられると言ったほうがよい。
6. 委員長 資料3の位置づけは大切。保留の項目も含めて全部記載したほうがよい。
7. 事務局 修正する。
8. 委員 資源化施設建設に伴う要望で活性化計画は2016年度に改定するといっている。時期が延びているのではないか。また、活性化計画はいらなと思っている。改定する際は、アクションプラン検討委員会のメンバーを主体にしてほしい。意見を参考に早期に見直してほしい。街づくり

を農業部門で行うのはおかしい。花のある道より、救急車が入れない道路を何とかしてほしい。

9. 事務局 アクションプランは2020年度までで、都市計画マスタープランは2021年度まで。そのため、アクションプランは1年延長する。計画の改定の際は、意見交換しながら方向性を固めていきたい。基本計画や都市マスタープランと整合しながら改定する。
10. 委員 2016年度に市長が活性化計画を改定すると発言したのは疑問である。
11. 委員 里山環境調査・資料作成委託料の600万円について、データの閲覧はできるのか。
12. 事務局 今後委託し、3月末までに完了予定である。閲覧できるか否かは検討する。
13. 委員 市道忠生579号線の整備完了は2027年度ときいているが、資源化施設も2027年度に完成するのか。並行して工事はできないのはいないか。市道忠生579号線と都道155号線の一区間を完了しないと、資源化施設は稼働させないと約束している。
14. 事務局 道路と資源化施設を一体で整備することが約束になっているので、資源化施設のための整備はしない。道路も路線が長いので資源化施設と同時期に完了することはできる。
15. 委員 モノレールについては、3年前の忠生地区の市政懇談会で用地買収を10年間で完成させ、その後4年で開通すると言っていた。都が行う事業を市が言っていた。実現可能な目標にしてもらわないと困る。
16. 事務局 当時はその目標であった。
17. 委員 土地絡みの問題は難しい。道路ができないと将来像は描けない。
18. 副委員長 実働は道路部署であるため、道路部署がこの場にはいないのはおかしい。農業振興課で、道路部署への働きかけを行っているのか。
19. 事務局 働きかけは行っている。
20. 委員 町田3・4・40号線もアクションプランに記載してほしい。道路部に働きかけをお願いします。

21. 委員 新たな交流・回遊拠点の開設について、必要な諸条件とは何か。
22. 事務局 道路や施設についてである。
23. 委員 候補場所は、大善地区か田中谷戸地区であるのか。南北のつながりは重要であると思っている。
24. 委員 回遊拠点に、遊歩道計画を入れてほしい。
25. 委員 野菜売り場や駐車場の場所は見えてくる。なぜ動かないのか。
26. 事務局 案はある。集客や持続性が大切。
27. 委員 一番の地主は町田市。そのため、街づくり協議会にも参加していただきたい。
28. 事務局 一緒に進めていきたい。
29. 委員 市有地は多いが、街づくりプランは地元の話し合いで決めるものである。
30. 委員 小山田中部街づくり協議会では、アクションプランは白紙にしたほうがよいとの意見が出た。農と緑があるが、農はいらない。活性化するには何を残すのか。全体の中で市有地を集約した方がよい。小山田全体の計画が必要。緑の保全是道路や全体の計画の中で考えてほしい。
31. 委員 町田市は荒れている田畑を蘇るようにする仕事をしているが、他の仕事で小山田を良くしてほしい。
32. 事務局 考えていきたい。回遊拠点を考える際、何をもって拠点とするかが課題である。建物が建てられない場合、トレーラーハウスが有効であるかもしれない。事業内容の検討や、採算性についてシュミレーションをすることが大切である。人を呼び込むための拠点は、小田急多摩線やモノレールの延伸もあるため避けて通れない。
33. 委員 里山交流館をオープンする際も、市の関係部署と6年間毎月1回会議を行った。その会議で言えないことを言わないといけない。また、地元の思いをくみ取る必要がある。住民が主導して行うことが大切。いかに継続できるかを毎年考えているからできる。苦労や手助けが必要なときに行政の人に頼るとよい。

34. 事務局 ある程度のプランを地域に持っていかないとスタートラインに立てない。地域を活かすには選択肢が最低限必要。話す題材を考えている。
35. 委員 町田3・4・40号線についての項目も上げてほしい。
36. 委員長 行政の向き合い方だと思う。進捗状況の評価について、できるだけ×を△にするようお願いする。
また、竹の子掘りイベントについて申込み率の標記の仕方も考えてほしい。
37. 事務局 整理していきたい。
38. 委員 指標は参加者の満足度のほうがよいのでは。量より質の指標にしてほしい。竹の子は時期があるため、2回連続は難しい。
39. 委員 北部丘陵は町田市の回遊拠点で、人が遊びに来られるようにしていかなければいけない。
40. 委員長 イベントの参加者や外側の意見を聞いたほうがよい。
41. 委員 結の里には市外の方も散策されていて、植物、動物を見に来ている。イベントではアンケートを実施している。
42. 委員 広報での集客は期待できる。PRは大切。プラットフォームで集約、対話できるシステムはよい。
43. 委員長 実をとることが大切。既存の必要なところに、サポートをあてがい、マネージメントをする。「関係人口」を増やすことが大切である。
44. 事務局 プラットフォームの形成については、今年度小野路ミーティングを実施したが、立ち上がらなかった。しかし、今後も何かを起こすことは大切だと考えている。集客については、収益とリピート率を考えている。また、事業については、話し合いながら考えていく。
45. 委員 市道忠生495号線と市道忠生496号線の生活道路の狭隘道路の拡幅も、計画に入れてほしい。
46. 委員 街づくりプランに盛り込まないと難しいのでは。
46. 事務局 都道155号線は測量までは農業振興課、その後は道路部で進める。アク

シヨンプランに載っていない生活道路についても働きかけを行っていく。

47. 委員 アクションプランを見直す際は、色々な要素を盛り込むことは大切である。
48. 事務局 周辺街づくりと併せて考えていけないといけないので、調整していく。
49. 委員 北部丘陵内で約束をしている路線をアクションプランにも記載すると、進んでいるように見える。農道整備は行っているが、一番大切な狭隘道路の整備は行っていない。地元が喜ぶようなことをやった方がいい。URから農地を取得したことも違法である。事業に関して発想の転換をしてほしい。
50. 事務局 今後検討していく。
51. 委員 小山田大龍地区では、住宅地価が㎡あたり1万円で、市内で一番地価が安く、過疎化している。地主の中では、山林や農地の維持管理に費用がかかっている。自らは高齢化し、子供たちは出ていってしまう。せめて、固定資産税や山林の相続税を免除してほしい。土地を処分するにも買い手がいない。このままでは誰もいなくなってしまう。モノレールの延伸は、この地域にとって起死回生の事業である。市にも延伸できるようお願いしたい。都市計画道路3・4・20号線も早期に事業決定してほしい。
52. 委員 大龍地区に住んでいるが、少子化が進んでおり小学生がいるのは4世帯しかない。小学校まで2.5kmほどあるため、バスが通る図師小学校まで通っている。農業で生計を立てている方はいない。リタイアした人がやっている。緑も昔とは景色が違う。きのこも取れない。遠くから見ると緑、ただそれだけである。モノレール延伸や道路整備が行われることで地域に価値が生まれる。
53. 事務局 税金関係の解決は難しい。北部丘陵地域の9割の私有地の扱いも課題である。土地を所有していても、住んでいない方がたくさんいる。
54. 委員 花のある道づくりの事業は素晴らしいが、危険でもある。千葉では、先日台風の影響を受けた。何か予防策はあるのか。災害が起きた際も担当がいらない。市、都も動かない。土砂災害に関する傾斜地については、枠組みがないため国は動かない。将来的にどこが担当するのか検討してほしい。

55. 委員 緑を集約して区画整理してほしい。そのためには、アクションプランの方針の抜本的な改革が必要である。
56. 事務局 モノレールや小田急多摩線延伸について、2020年度都市計画マスタープランを改定するため、計画も併せて改定していく。安全な街づくりについても、計画に含めるか否か検討していく。
57. 委員 生活の維持に関しても検討してほしい。
58. 事務局 自然の保全だけを考えているわけではなく、北部丘陵地域の充実を図りながら、生活環境も考慮しながら改定を行う。地区計画も活用していきたい。
59. 副委員長 地元の委員から、厳しい意見が出ているが、農業振興課は頑張っているように見える。専属のテーマがあるため、他の部署も巻き込んだほうがよい。アクションプランも活性化計画の見直しについても、庁内の応援団を増やしたほうがよい。
60. 委員長 プロジェクトチームを作り意識的に動くことが必要。プロジェクトチームが現場に入り、NPO団体や活動者の生の声を聞きながら、地域を紹介して北部丘陵に興味をもってもらい、外からも応援団を増やしたほうがよい。マンパワーの支えになるかもしれない。また、地元の人をここで暮らしていく心の支えを入れて考えていった方がいい。生の姿、声をはさんでもらい色々なプロジェクトに参加してもらおう。こういう取組を通じて、庁内、庁外に広がりをもたらすことが次への足掛かりとなる。

閉会